

「ありがとう」をよんでみようー

「ありがとう」の詩しについて

詩（し）とは、「かんどうした きもちや、おもったことを みじかいことばで リズムよく ひょうげんしたもの」だね。

詩しのとくちょう「連（れん）」

詩（し）は、いくつかの かたまりで かかっているね。

『ありがとう』の詩（し）も、おおきな 4つの かたまりで できているよ。

この「かたまり」のことを「連（れん）」と よぶんだよね。
なので、『ありがとう』は「4つの連（れん）」で つくられた 詩ということだね。

詩しのくふう

『ありがとう』の 詩の、1つめと 4つめの 連は、おなじ ことが かかっているね。

さらに、2つめと 3つめも とても にていることに きがつくかな？

「いえば とっても いい きもち」と、

「いわれりゃ もっと いい きもち」という 2つの連は、とても よく にているよ。

「いえば」に たいして「いわれりゃ」、

「とんでも」に たいして「もっと」

「いい きもち」は どちらの 連も おなじだね。

こうやって、にている かたちにする ことで、詩の リズムも よくなるし、詩を よんだひとの いんしょうに つよく のこる こうかが あるよ。

「ありがとう」という ことば

『ありがとう』の 詩では、「ありがとう」という ことばが なんども くりかえし つかわれているね。

これも、なんども くりかえして つかうことで、「ありがとう」という ことばが 詩を よんだひとの いんしょうに つよく のこる こうかが あるんだ。

なんども つかわれている「ありがとう」という ことばには、さくしゃの しょうじ たけしさんの おもいが こめられているんだね。

さくしゃの つたえたいこと

『ありがとう』の 詩には、さくしゃの どんな おもいが こめられているのかな。

「ありがとう」と いえば、とつても いいきもちに なれるということ。

「ありがとう」と いわれると、もっと いいきもちに なれるということ。

だれかに たすけてもらったり したときや、うれしいことを してもらったら、「ありがとう」という きもちを すなおに つたえると、いったひとも、いわれたひとも、とても いい きもちに なれるということだね。

ありがとう 音読おんどくのポイント

『ありがとう』を 音読おんどくするときの ポイントを しょうかいするよ。

「ありがとう」に きもちを こめよう

『ありがとう』の 詩は、「ありがとう」という きもちを つたえることの すばらしさを つたえようと している 詩しだよね。

なので、「ありがとう」という ぶぶんは、だれかに かんしゃしたり、たすけてもらって うれしいきもちを こめるように、ていねいに たいせつに 音読おんどくすると よいね。

「もっと」に きもちを こめよう

「いえば とっても いい きもち」と、「いわれりゃ もっと いい きもち」は、とても にている ぶぶんだけれど、「ありがとう」を いうよりも、「ありがとう」と いわれることは、「もっと」いい きもちなんだよね。

だから、「もっと」を音読おんどくするときには、「とつても」を音読おんどくするときよりもこえをすこしおおきくしたり、ゆっくりだいに音読おんどくするときいているひとにつたわりやすくなるね。

「ありがとう」まとめ

- ・詩とは、「かんだうした きもちや、おもったことを みじかいことばで リズムよく ひょうげんしたもの」
- ・『ありがとう』は「4つの連」で つくられた 詩
- ・『ありがとう』の 詩の、1つめと 4つめの 連は、おなじことが かかれています。また、2つめと 3つめも とても にている
- ・『ありがとう』の 詩では、「ありがとう」という ことばが なんども くりかえし つかわれている
- ・さくしゃの つたえたいことは、「「ありがとう」という きもちを すなおに つたえると、いったひとも、いわれたひとも、とても いい きもちに なれる」ということ